

こどもが自ら学び進める 自立した学習者を目指した授業構想

— 個々の探究的な学びを主とした社会科学習を通して —

和歌山市立雑賀小学校
教諭 細田 和希

【要旨】 本研究では、個々の探究的な学びを主とした単元構想、また、自らの変容や成長を実感するリフレクションの実施を通して、こどもが学ぶこと自体に楽しさや必要性を感じ、主体的・継続的に学び続ける「自立した学習者」に近づくことを目指して、社会科の授業を構想した。実践においては、「個人シート」を用いてこどもの思考を丁寧に見取り、一人一人の学びの方向性を見通した個別支援を行うことで、自身の学びと真剣に向き合いながら学習を進め、その過程で変容していく自己を自覚し、更なる探究的な学びを希求するこどもの姿が見られた。

【キーワード】 自立した学習者、自律的動機づけ、探究的な学び、学び方を学ぶ、学習の手引き、単元構想、リフレクション、協働的に学ぶ

1 研究のねらい

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（以下、「答申」と略記）では、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休業の長期化により、多様な子供一人一人が自立した学習者として学び続けていけるようになってきているか、という点が改めて焦点化された」（※1）との指摘があり、こどもたちが主体的に、また継続的に学びに向かうことができているかという点における課題が浮き彫りになっている。

また、「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」では、「子供たちが多様化する中で、教師一人による紙ベースの一斉授業スタイルは限界に来ている。」（※2）と述べられており、こども一人一人がもつ多様性に応じた学びを実現していく必要性が示された。

このような教育的諸課題や、学校教育への社会的要請を踏まえた上で、これまでの自身の実践を振り返ると、筆者には、目の前のこどもが自身の学びをどう創っていくのかという意識が足りず、こども一人一人が「自立した学習者」となり得るような授業ができていなかったと考える。こども一人一人が、何を、どのようにして学ぶのかという、個々の学びの道筋をより大切にし、こどもが自らの学びや変化を実感できるような学習を展開する必要があった。

以上のことから、多様な個に応じた学習の充実を図ることで、こども一人一人が学ぶ意味や価値を実感し、自分の力で学び進めていくことができる。そして、このような学習を通して、こども一人一人が自立した学習者へと近づいていくことを目指した社会科の授業を構想した。

2 研究内容

（1）「自立した学習者」とは

荒瀬（2023）は、自立した学習者について「自らの学びを調整しつつ、他者と協働して、自分で考え、判断し、行動できる、あるいは、しようとする能力と意思をもつことで『自立した学習者』になっていく。」（※3）と説明しており、必要に応じてあらゆる他者と協働しながら、こども一人一人が主体的に学ぶことの重要性を示している。こどもが自分で

考え、判断し、行動しようとする意思をもつということは、こどもが自律的動機づけによって学習することであると考えた。速水（2019）によれば、「自分なりにやる意味や価値を理解し納得して行動するという段階」（※4）が自律的な動機づけであるとされる。白杉（2025）は、最も自律性の高い、その行動をとること自体が目的となる内発的動機づけだけでなく、その行動の大切さを理解している状態の同一化的調整、行動が完全に自分の価値観と一致した状態の統合的調整も自律的動機づけとして分類している。つまり、自律的動機づけによって学習するということは、こどもが「大切だから」「やりたいから」という動機により学習するということである。

荒瀬（2025）は、自立した学習者たる重要な要素の一つとして、こどもが自己決定できることを挙げている。また、答申では、「『学習の個性化』により児童生徒の興味・関心等を生かした探究的な学習等を充実」（※5）させることの重要性が示されている。

以上のことから、本研究では以下の2点に重点を置く。1点目は、こども自身が問いを設定し、学習方法を選択しながら、時には仲間や教師、身のまわりの人の力を適切に借りつつ、自分の力で学習を進めていくことを通して、個々の探究的な学びを充実させ、学ぶ方を学ぶことである。2点目は、こどもが自分の学びの足跡を振り返ることで、自分自身の変容や成長を実感し、学ぶことの重要性に気付く、学ぶこと自体を楽しむことである。

（2）具体的な手立て

ア 「学習の手引き」の作成及び活用

こどもが探究的な学びを自分の力で進めていけるように、3種類の学習の手引きを用意した。こどもが、探究的な学びに取り組む意義やその学習過程、学習方法を理解して学べるように「探究学習の手引き」を、また、情報収集に取り組む際に、自分で立てた問いの性質に応じて適切な方法を選択できるように「情報収集の手引き」（図1）を作成した。さらに、学びの過程において、こどもが自身の学習状況を見つめ直し、今後の学習について見通しをもてるように「振り返りの手引き」を作成した。これらの手引きをこども一人一人が手元に置き、それを活用しながら学習することで、学びの道筋を意識しつつ、自分の力で学習を進めていけるようになるのではないかと考えた。

イ 個々の学びを大切にしたい単元構想

こども一人一人が個々に探究的な学びを進める中で、単元の目標や学習内容に迫っていけるように、まずこどもたちがもつであろう様々な問いを予想し、それを基に多様な学びの道筋を考え、単元構想図（図2）を作成した。本単元では、個々の探究的な学びを主としながら、その過程で生まれる学習問題について、こどもが学級全体に問いかけ、話し合う。また、その話し合いを基に更なる個々の探究的な学びへと返っていくような学習過程を構想した。

ウ 2種類のリフレクションの実施

こどもが自ら調整しながら学習を進め、学びの実感を得ることができるよう、2種類のリフレクションを設定した。一つ目の「自分の学習をコントロールする振り返り」は、毎時間授業の終末に書くもので、自分の学習が計画通り進んだのかをこども自身が評価するとともに、どのようなことが分かり、今何を考えているのかといった自身の思考を整理する。そして、それらを基に、次時以降の学習について見通しをもつために書くリフレクションである。二つ目の「自分を物語る振り返り」は、単元の終末に書くもので、「自分の学習をコントロールする振り返り」で記録しておいた日々の学習の様子を基に、こ

アンケートをとる!

こんなときに向いているよ!

- 世の中の人々の意見をききたいとき
- 多くの人の“生の声”をききたいとき

アンケートの極意

①準備

- ① 目的を明確にする (どんなことが知りたいのか)
- ② 相手・人数を決める (どんな立場の人、何人にきくのか)
- ③ 質問の内容を決める (どんなことをきくのか)

構成	具体例
①はじめの言葉 目的の説明	〇〇小学校△年組です。私たちは、今社会科でスーパーマーケットの学習をしています。どこのスーパーの利用者が多いのか、それはなぜかを調べるためにアンケートをおこなっています。本アンケートの結果は教育活動に役立てのみ活用し、個人情報の取扱いには十分注意します。ご協力よろしくお願いいたします。
②相手の情報 年代・性別など	年代() 性別(男・女・無回答)
③質問内容 知りたい内容に関する質問	① いつもどこのスーパーで買い物されることが多いですか? () ② どうしてそのスーパーで買い物されるのですか? () ③ いつも買い物されるスーパーの良いところはどこですか? ()
④おわりの言葉 回答へのお礼	ご協力ありがとうございました。

Point 紙だと自由にかけるのでより自分が思っているアンケートの形にしやすく、デジタルだと集計がとっても簡単だよ!(2次元コードも活用しよう!)

図1 情報収集の手引きの一部

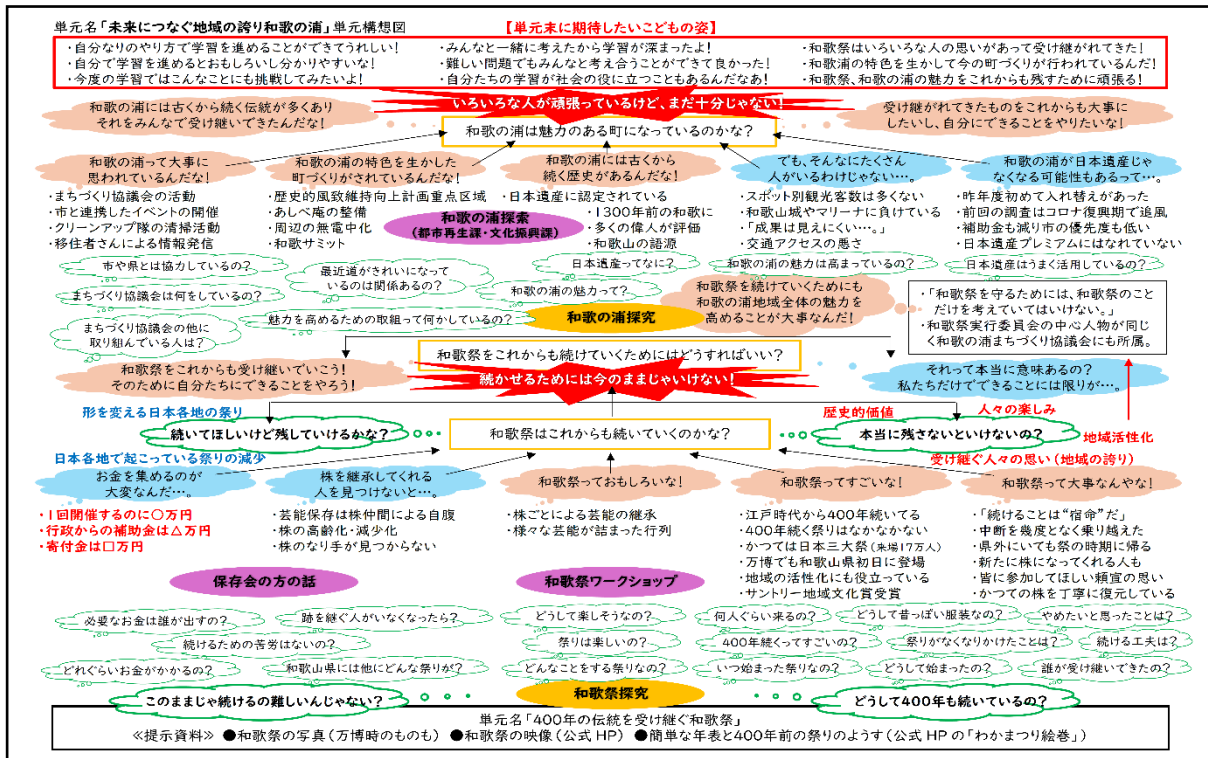


図2 単元構想図

もが自分を主語にして、何を契機に、自分にどのような変容や成長があったのかを自覚するために書くリフレクションである。この二つのリフレクションを、「振り返りの手引き」を基に関連付けて行うことで、こどもの「分かった」「できた」という実感は一層強くなり、「次もできそうだ」「また頑張りたい」という、学習そのものに対する動機づけがより自律的なものになると考えた。

3 所属校における授業研究について

(1) 研究授業の概要

所属校の第4学年1学級32名を対象に、県内に古くから伝わる文化財や年中行事についての学習（以下、「小単元『和歌の浦』と表記）と、県内の特色ある地域の様子についての学習（以下、「小単元『和歌の浦』と表記）を組み合わせ、いずれも地域にある日本遺産和歌の浦を対象として学習することができる社会科の単元を計画した（表1）。二つの学習を組み合わせることで、地域に根付いた歴史や文化、またそれを継承・活用する地域の人々の思いや、行政の取組等、より多角的・多面的に学習対象に迫ることができるのではないかと考えた。個人の探究的な学びを主としながら、複数人で学習を進めるなど、子ども自身が必要に応じて適切な学習形態を選択できる旨を伝えることで、協働的に学ぶ場が生じ、多様な情報や考え、価値観を得て、個々の学びが更に充実するように努めた。

単元の学習を始める前に、第0時としてガイダンス授業を行い、探究的な学びの学習方法やポイント等について、体験的に学ぶ時間を設定した（図3）。第1時は、小単元「和歌祭」の導入として、中心資料「東照宮縁起絵巻」と、小単元名「400年の伝統を受け継ぐ和歌祭」から、疑問に感じたこと（ハテナ）を付箋に書き出し、その内容を交流する（図4）

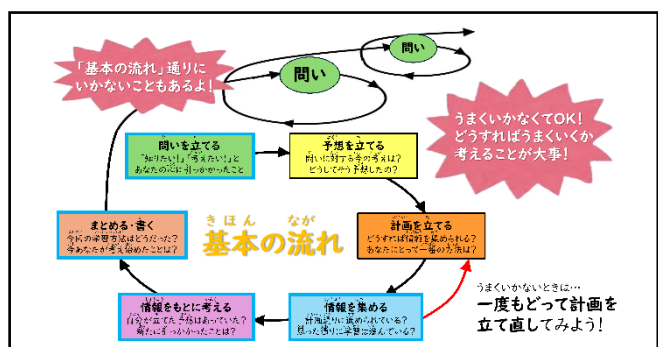


図3 ガイダンス授業で使用した資料の一部

表1 単元の指導と評価の計画

主な学習活動	評価方法と【評価規準】
<p>第1次 和歌祭について探究をはじめよう！</p> <p>第0時：探究学習ってなんだろう？（ガイダンス）</p> <p>第1時：探究したくなるハテナを見つけよう！</p> <p>第2時：個人探究をしよう！</p> <p>第3時：個人探究をしよう！</p> <p>第4時：個人探究をしよう！</p> <p>第5時：今考えていることを交流しよう！</p>	<p>○東照宮や和歌祭について調べたことをノートにまとめ、これらがもつ歴史的背景や古くから受け継がれてきたことを理解している。 【知・技】（発言・ノート等）</p> <p>○東照宮や和歌祭について自分なりの問いを設定し、それを解決するために意欲的に調べるなど、自分の力で探究学習を進めようとしている。 【態】（個人探究の様子・発言・ノート等）</p>
<p>第2次 和歌祭について探究を進めよう！</p> <p>第1時：和歌祭を体験しよう！（ワークショップ）</p> <p>第2時：保存会の方の話を聞こう！</p> <p>第3時：個人探究をしよう！</p> <p>第4時：個人探究をしよう！</p> <p>第5時：今考えていることを交流しよう！（学習問題設定）</p>	<p>○地域の人々が様々な願いを込めて、東照宮や和歌祭の継承に取り組み、これまで受け継いできたことを理解している。 【知・技】（発言・ノート等）</p> <p>○探究して分かったことを基に、古くから受け継がれてきた東照宮や和歌祭に宿る地域の人々の願いや努力について考え、表現している。 【思・判・表】（発言・ノート等）</p> <p>○東照宮や和歌祭について自分なりの問いを設定し、それを解決するために意欲的に調べるなど、自分の力で探究学習を進めようとしている。 【態】（個人探究の様子・発言・ノート等）</p>
<p>第3次 和歌祭について考え合おう！</p> <p>第1時：自分の考えを整理しよう！</p> <p>第2時：学習問題について考え合おう！</p> <p>第3時：和歌祭の学習を振り返ろう！（物語る振り返り）</p>	<p>○東照宮や和歌祭をこれから未来に受け継いでいくこと、持続可能なより良い社会の在り方等について考え、表現している。 【思・判・表】（発言・ノート等）</p> <p>○東照宮や和歌祭に関わる課題を主体的に解決しようとし、これからも保存・継承していくための社会の在り方について意欲的に考え、その実現に向けて、自分にできることを実践しようとしている。 【態】（発言・ノート等）</p>
<p>第4次 和歌の浦について探究を始めよう！</p> <p>第1時：探究したくなるハテナを見つけよう！</p> <p>第2時：個人探究をしよう！</p> <p>第3時：個人探究をしよう！</p> <p>第4時：今考えていることを交流しよう！</p>	<p>○和歌浦地区には古くから受け継がれているものが多くあり、それらをつなぐ歴史的ストーリーが日本遺産として登録されていることを理解している。 【知・技】（発言・ノート等）</p> <p>○和歌浦地区の町づくりについて自分なりの問いを設定し、それを解決するために意欲的に調べるなど、自分の力で探究学習を進めようとしている。 【態】（個人探究の様子・発言・ノート等）</p>
<p>第5次 和歌の浦について探究を進めよう！</p> <p>第1時：和歌の浦を探索して感じよう！</p> <p>第2時：町づくりに関わる方の話を聞こう！</p> <p>第3時：個人探究をしよう！</p> <p>第4時：個人探究をしよう！</p> <p>第5時：今考えていることを交流しよう！（学習問題設定）</p>	<p>○和歌浦地区では歴史ある街並みや日本遺産を活用し、様々な立場の人々が協力して持続可能な町づくりに努めていることを理解している。 【知・技】（発言・ノート等）</p> <p>○探究して分かったことを基に、和歌浦地区の歴史情緒豊かな様子を捉え、どのような特色をどのように生かして町づくりが行われているのかについて考え、表現している。 【思・判・表】（発言・ノート等）</p> <p>○和歌浦地区の町づくりについて自分なりの問いを設定し、それを解決するために意欲的に調べるなど、自分の力で探究学習を進めようとしている。 【態】（個人探究の様子・発言・ノート等）</p>
<p>第6次 和歌の浦について考え合おう！</p> <p>第1時：自分の考えを整理しよう！</p> <p>第2時：学習問題について考え合おう！</p> <p>第3時：和歌の浦の学習を振り返ろう！（物語る振り返り）</p>	<p>○和歌浦地区が持続可能な町としてこれからも続いていくためのより良い地域の在り方等について考え、表現している。 【思・判・表】（発言・ノート等）</p> <p>○和歌浦地区の町づくりに関わる課題を主体的に解決しようとし、これからも持続可能な町にしていくための地域の在り方について意欲的に考え、その実現に向けて、自分にできることを実践しようとしている。 【態】（発言・ノート等）</p>

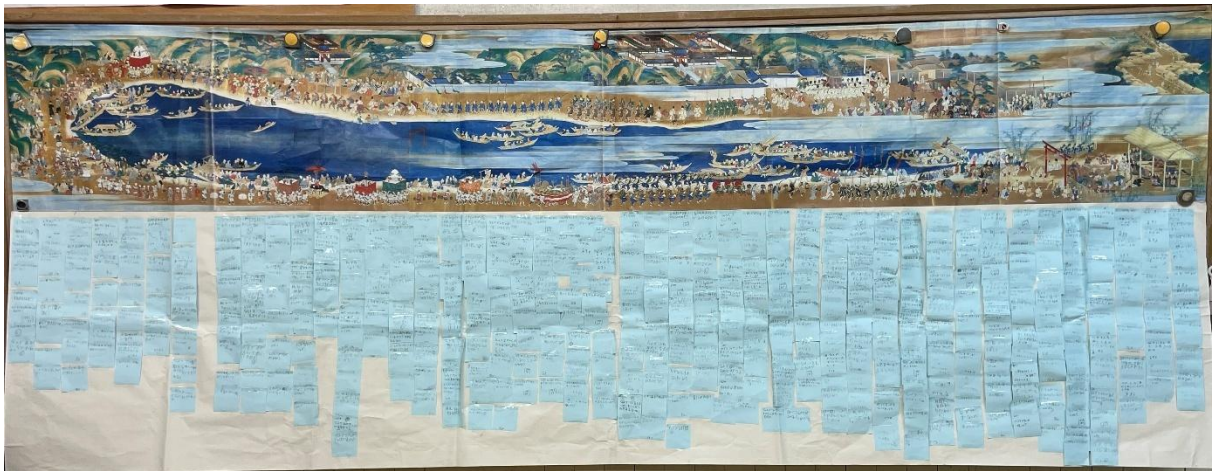


図4 和歌祭に対する疑問（ハテナ）を書き出した付箋

ことで、個々の探究的な学びの窓口となる問いを子ども一人一人が設定した。第2時以降は、第1時で設定した問いを足掛かりにして、子どもたちは個々に探究的な学びを進めた。合わせて、和歌祭保存会の方々による芸能体験や、和歌山市都市再生課の方々と巡る和歌の浦見学等の体験的な学習、また、探究的な学びを通して生じた個々の悩みや葛藤について共有し話し合う学習等、子どもたちが学級全体で学ぶ機会を、筆者は学習状況を見取りながら適宜設定した。この間、同じ問いをもつ子ども同士が、目的を確認しながら質問項目や対象について考え、ともにアンケートを作成したり、共通の議題について異なる考えをもっている仲間と意見を交流したりするなど、子どもたちが協働的に学ぶ姿も見られた。「自分の学習をコントロールする振り返り」は、基本的に毎授業の終末に書き、「自分を物語る振り返り」は、各小単元末の計2回、書く機会を設けた。

(2) 本研究の評価

研究の成果と課題を明らかにするために、単元開始前、単元終了後の2回アンケート調査(資料1)を実施した。また、子どもが書く振り返りの内容を毎時間確認し、学級全体で話し合う際には、授業記録をとった。そして、アンケート調査と、振り返りの内容や授業中の発言等の具体的な子どもの言葉から、取組の成果等について分析を行った。

4 成果と課題

(1) 結果と手立てについての分析

本研究の重点事項である、子どもが「学び方を学ぶことができたか」「学ぶことの重要性や楽しさを実感することができたか」の2点について、その結果と講じた手立てとの因果関係について分析を行った。

ア 学ぶことの重要性や楽しさに対する実感について

本単元の学習後に行ったアンケートでは、「本単元における学習の楽しさ」を問う質問に対して、全ての子どもが肯定的に回答した(図5)。また、「探究的な学びの良さ」を問う質問に対しても、複数ある選択肢の中から、学級の73.3%が「学習することが楽しかった」を選択しており、本単元の学習内容だけではなく、探究的な学びそのものに楽しさを感じている子どもが多くいたことが分かる

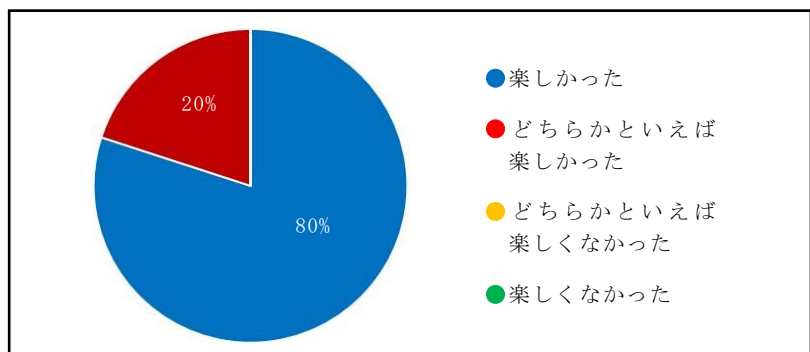


図5 単元終了後に実施したアンケート調査【1】結果

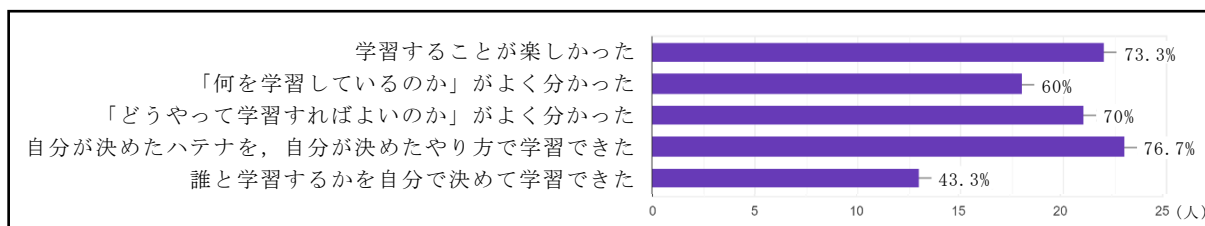


図6 単元終了後に実施したアンケート調査【4】結果

(図6)。さらに、「探究的な学びに対する印象」を問う質問では、80%が「楽しいし、自分にとって大事である」を選択し、次いで「楽しいが、自分にとって大事ではない」が13.3%、「楽しくないが、自分にとって大事である」が6.7%であった(図7)。

この「楽しくないが、自分にとって大事である」と回答した二人のこどもは、本単元の学習前に行ったアンケートにおいて、「社会科の学習は楽しくない」と回答していた。この二人にとっては、学習そのものを楽しいと思うことができなくても、その重要性については理解できたことが分かる。その結果、「今後も探究的な学びに取り組もうとする意欲」を問う質問では、二人を含む全てのこどもが肯定的に回答した(図8)。このことから、本単元の学習を通して、こどもたちが、自分の力で探究的な学びを進めていくことに楽しさや重要性を感じ、

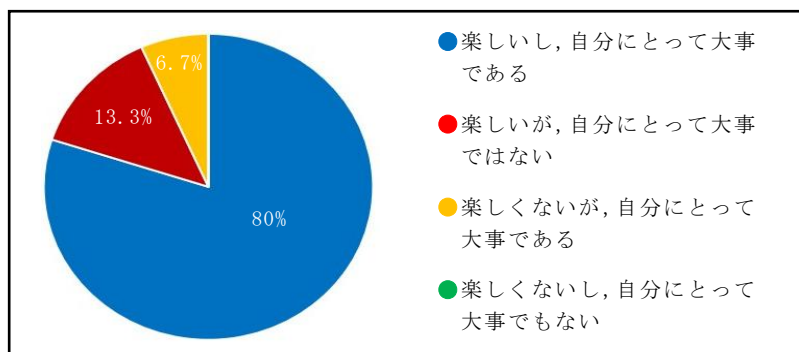


図7 単元終了後に実施したアンケート調査【6】結果

今後も継続して取り組みたいという意欲をもつことができたことが伺える。つまり、こどもたちの動機づけが自律的なものになったことが示唆された。

このような結果が得られた要因として考えられるのは、個々の学びを大切にした単元構想である。先述の「探究的な学びの良さ」を問う質問に対して、こどもたちの回答で最も多かった選択肢は「自分が決めたハテナを、自分が決めたやり方で学習できた」であり、76.7%のこどもが選択していた(図6)。主な学習活動に個々の探究的な学びを据え、また教師も、こども一人一人の学びの方向性を見通した支援を心掛けたことで、こどもたちは、自分が本当に考えたいことを追究し、多様な角度から学習対象に迫ることができたようである。

また、2種類のリフレクションによって、こども自身が学びや成長を自覚できたことも、こどもたちの動機づけを自律的なものにするために有効的に作用したと考えられる。「自分を物語る振り返りによる自身の変化や成長の実感」を問う質問では、93.3%のこどもが肯定的に回答し、具体的な良さとして「今までの自分の成長や変化が明確に分かることが良かった」といった記述が見られた。「学習をコントロールする振り返りの良さ」を問う質問では、「自分の学習を見直せるのが良い」「見返すときに見返しやすい」「自分を物語る振

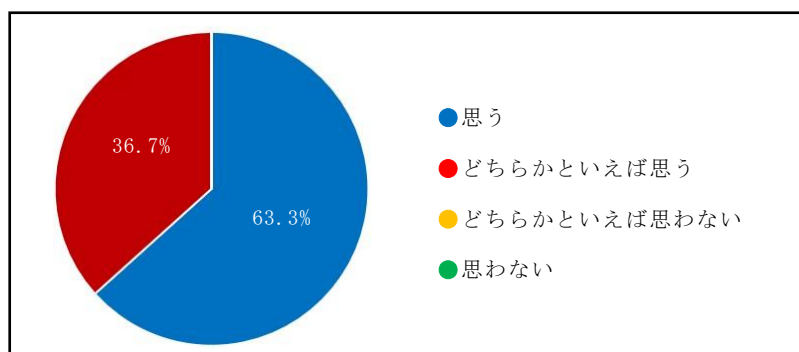


図8 単元終了後に実施したアンケート調査【7】結果

り返りが書きやすい」といった記述が見られた。このことから、2種類のリフレクションを関連付けて行ったことで、子どもたちは自分の学習の足跡を振り返ることができ、それによって、自身の変容や成長を実感しやすくなったと考えられる。

イ 学び方を学ぶことについて

「探究的な学びの良さ」を問う質問では、70%の子どもが「どうやって学習すればよいのがよく分かった」を選択している(図6)。その他、「学習そのものが楽しいこと」「問いや学習方法について自己決定できること」等の項目を選択した子どもも70%を超えている。また、自由記述では「自分のペースで学習を進められるところ」「これまでとちがって、自分でハテナを立てて学習を進められるところ」といった記述が見られるなど、多くの児童が探究的な学習の仕方を肯定的に捉えていることが分かる。しかし、「探究的な学びの難しさ」を問う質問では、「問いを立てること」や「学習に見通しをもつこと」「適切な情報収集の方法を選ぶこと」等の項目を選択した子どもが複数人おり、この中には、前出の「探究的な学びの良さ」を問う質問で、「どうやって学習すればよいのがよく分かった」を選択した子ども、選択しなかった子どものいずれもが含まれている。このことから、本単元の学習を通して、探究的な学びの進め方を十分に理解したと言える子どもばかりではないことが分かる。特に、子どもたちが自分の力で探究的な学びを進めていく上で、一番の課題となったのは、「自分の問いをいかに考え、解決していくか」という見通しをもつことである。「学習をコントロールする振り返りの難しさ」を問う質問では、最多の9人が「次の学習に見通しをもつこと」を選択している。これは、子どもたちの学習に取り組む様子から、筆者が感じた難しさとも一致していた。本研究では、探究的な学びの過程において、情報収集の部分が子どもたちにとって一番の課題になるであろうと想定し、「情報収集の手引き」を用意した。この手引きを活用することで、子どもたちが多様な方法を知り、自分の知りたい情報を得るための適切な方法を選択できるように手立てを講じた。しかし、実際には情報収集に向かう前段階の「どうすれば自分の問いを解決できるのか」「どのような視点を持ち、どのような情報を集めればよいのか」を考えると、多くの子どもたちが難しさを感じていた。そのため、「情報収集の手引き」を効果的に活用するに至らなかったと推測する。

一方で、子どもたちに前向きな変化が見られた場面もあった。単元が始まった当初は、多くの子どもがインターネットを使って情報収集に取り組んでいたが、自分の必要とする情報に辿り着けないことが多かった。この経験から、子どもたちは少しずつ自分の問いに応じた情報収集の仕方を模索するようになった。小単元「和歌祭」の終末に書いた「自分を物語る振り返り」では、「インターネットでは分からないことも多くあると分かった」「インタビューの方が自分の知りたい情報をすぐ聞くことができるから良いと思った」といった記述が多く見られ、続く小単元「和歌の浦」では、はじめからインタビューして調べたいと考える子どもが増えた。このことから、小単元「和歌祭」の学習経験を通して、子どもたちの中に「インタビューする」という選択肢が追加され、情報収集の方法が更新されたと考える。小単元「和歌の浦」の終末に書いた「自分を物語る振り返り」に、「自分はインタビューができるようになった」と自己の成長を認め、「和歌祭のときでもできていたけど東照宮(小単元「和歌の浦」)の方がいっぱいしたからもうできるなあと思いました」と記述した子どももいた。この記述からは、繰り返しインタビューに取り組んだことで、「もうできる」と自信を得た子どもの様子が伺える。

今回「情報収集の手引き」として、提示した多くの方法は、子どもたちにとって、インターネットを使うことに比べて馴染みの少ないものばかりだったと推測する。それでも、インタビューという新たな情報収集の方法に取り組むことで、その良さや方法を理解し、積極的に使おうと思う子どもがいたように、その他の方法についても、同じように経験を積むことが重要である。情報収集の仕方として、インターネットを用いる以外の良さを知った子どもたちは、むしろこれから多様な方法に目を向け始め、「情報収集の手引き」を活用し始めると予想する。そのための機会を十分に確保するという意味においても、今後も

本単元で行ったような探究的な学びに継続的に取り組むことが重要であると考え。

本研究を通して、全てのこどもが、自分で考え、判断し、行動できる能力を身に付けたかといえは十分ではない。しかし、こどもたちが前進する一歩として「学び方を学ぶことができた」と言えるのではないかと考える。そして、更にその歩みを前へと進めていくためには、今後も継続的に探究的な学びに取り組むためのこどもたちの意欲が不可欠である。このことから、探究的な学びを希求し、これからも意欲的に取り組もうとする気持ちが、全てのこどもに醸成されたことは、本研究における最大の成果と言える（図8）。

（2）今後について

本単元の学習後に行ったアンケートでは、「探究的な学びができた実感」を問う質問に対して、全てのこどもが肯定的に回答した（図9）。今後も探究的な学びを継続的に行い、より一層の向上を図るため、こども同士が協働的に学ぶ機会を更に充実させたい。例えば、始業に際して、その日の自分の学習計画を

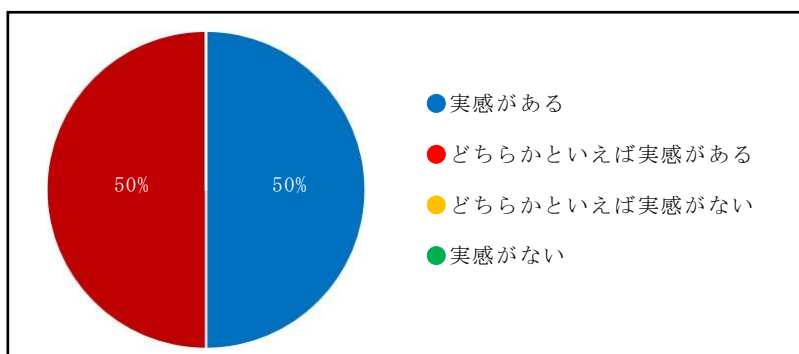


図9 単元終了後に実施したアンケート調査【3】結果

ペアで交流するといった学習活動を行うことが考えられる。自分の学習計画を相手に伝えることも大切だが、それ以上に、相手の学習計画を吟味することに重点を置く。この計画で相手が知りたいことを調べられるのか、より良い方法はないかといった視点で相手の話を聞き、必要に応じて助言し合う。この活動を通して、どのようにして学習に見通しをもてばよいのかが徐々に分かってくるとともに、そのために書く「学習をコントロールする振り返り」の内容も整理されると考える。

また、今回の単元では、個々の問いや学習状況をこども同士で共有させることができず、教師だけが把握している状態であった。そのため、必然的に教師から促す形で協働的に学ぶ場を設定することになった。ただ、そのようにして生まれた学びの場であっても、こどもたちにはまず自分の学びの道筋があり、その延長線上に仲間と協働的に学ぶ場があるため、非常に円滑に、かつ意欲的に学習する姿が見られた。これは、協働的に学ぶこども同士が、自身の探究的な学びをより良いものにする互恵的な関係であり、学習の目的や内容が自然と共有されるからであると推測する。個々の学びの道筋があるからこそ、協働的に学ぶ場は効果的なものとなり、個々の探究的な学びを更に充実させることになると感じた。したがって、そのような機会をより多く、こどもたちが仲間の学習状況を見ながら、自ら選択して設けることができるように、Padletのようなデジタル掲示板ツール（図10）を活用するなどして、個々の学びを共有できる仕組みを考えたい。



図10 Padlet を利用した情報共有の例

個々の探究的な学びを主として学習が展開していく中で、教師にとって最も重要な役割は、こども一人一人の学習を丁寧に見取り、支援の仕方を考えることである。本単元では、毎時間こどもが書いた振り返りを「個人シート」（図11）にまとめ、過去の学習内容や思考の流れを踏まえて、目の前のこどもが何を、どのように学んでいくのかを予測することに

努めた。そして、どのような学習資料があれば分かりやすいか、誰と意見を交わせば知見が深まるか、どのような立場の人との出合いを求めるかといったことを考え、こどもの学びを支えられるような環境を整えることに力を尽くした。本単元の学習が始まる前に作成した「単元構想図」は、こどもたちの学び

がどこに向かうのかを考えるための指針ではあるが、そこに引き込むための絶対的な終着点とならないように留意した。その結果、こどもたちは本単元における探究的な学びを肯定的に捉えてくれたのではないかと推測する。一方で、「個人シート」の作成には、あまりにも時間と手間がかかりすぎたという反省もある。改善策として、例えば、こどもが振り返りを紙媒体に書くのではなく、Google スプレッドシート（図 12）等の電子媒体に打ち込み、Google Classroom のようなクラウドサービスを活用して、オンライン上で共有することが考えられる。そうすることで、こどもの振り返りを紙媒体から電子データに変換する手間が省け、個々のこどもの振り返りに対する教師の評価も、効率よく行うことができる。その結果、必要な環境整備にも時間的

な余裕をもって取り組めるのではないだろうか。

本研究に取り組んで、筆者が一番強く感じたことは、探究的な学びを、こども自身の力で進めていくための意思や能力は、決して一朝一夕で育まれるものではないということである。しかし、本単元のような学習経験を繰り返し積み上げていくことで、徐々にではあるが、確実に育まれていくことも実感できた。今後も継続的に取り組むことはもちろん、学校として系統的に取り組んでいくことも重要である。そのために、こどもたちが探究的な学びに取り組みやすい環境を引き続き模索するとともに、学校全体で取り組むことができる環境についても考えていきたい。

< 補足 >

※Padletは、Wallwisher, Inc.の商標です。

※Google Classroom及びGoogle スプレッドシートは、Google LLC の商標です。

< 引用文献 >

- ※ 1 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』 p.17 (2021)
- ※ 2 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議『Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ』 p.10 (2022)
- ※ 3 荒瀬克己「学び、学び合う学校をつくる」文部科学省『中等教育資料 5月号』学事出版 p.16 (2023)
- ※ 4 速水敏彦『内発的動機づけと自律的動機づけ - 教育心理学の神話を問い直す - 』金子書房 (2019)

<p>11/4 (火) 個人探究④</p>	<p>私は、今日400年も和歌祭がつづいている理由を調べました。パソコンのドライブの今の和歌祭のえいぞうを見ました。その中でできた伝統伝承は、22ありました。ちこくぐらいだと思っただけ、全然ちがって22こもあったから、22こも伝統芸能があったから、それぐらいお客さんが来ているんだなあと感じた。地いきの人たちがいて、地いきの人たちも参加していたから、地いきの人たちと和歌祭はささえられているのかなあと思いました。和歌祭はささえられているから大丈夫まで多くの地いきの人が様々な形で祭に参加しているから大丈夫です。和歌祭の伝統芸能は地いきの子どもから大人の人まで参加していて、地いきの人たちがいるから和歌祭ができるから、和歌祭の人は感じていると思った。地いきの人たちは参加しているかと思っていなくて和歌祭の人だけやっているかと思っていました。22こもあると思っていなかったから、びっくりした。1こで8人から5人ぐらいいるから、全部の人を集めたら100人以上いそうだから、そんなに人を集めたのはすごいと思った。和歌祭をもっと広めたいと思いました。</p> <p>「和歌祭をもっと広めたい」 ってどうして思ったの？</p> <p>地域の人って具体的にはだれかな？ 結局どんな人たちが参加しているの？</p>	<p>★和歌祭が実行委員会の方々だけでなく、それをはじめとした「地域の方々」によって支えられていることに気づいている。しかし、その具体的な中身、例えば「地域の人」ってどんな人がいるのかはわかっていないだろう。などの野球部もこの「地域の人」におそらく含まれている。どんな人たちが結局祭りに参加しているのか、そこを追究していくことができればおもしろい。また、最後には「和歌祭をもっと広めたい」という思いが書かれているが、なぜそう思ったのかをきいてみたい →「地域の人」がだれなのかを問い、まずはそこに具体性がないことに気づかせたい。どんな人たちが今の和歌祭に参加しているのか、それをインタビュー等を通じて探っていくようにしたい</p>
---------------------------	---	---

図 11 個人シート

氏名	10/16 (木) 振り返り	10/21 (火) 振り返り
A児	【先生からのコメント】	【先生からのコメント】
B児	【先生からのコメント】	【先生からのコメント】

図 12 Google スプレッドシートを使用した振り返り例

※5 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）』 p.28（2021）

<参考文献>

- ・白杉亮『自己調整につながる学習理論をビジュアルでまとめました』明治図書（2025）
- ・New Education Expo 2025『学びの場をどう調えるか学習指導要領改訂も視野に入れて』講演資料（2025）
- ・藤井千春『問題解決学習入門』学芸みらい社（2018年）
- ・文部科学省『今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』アイフィス（2021）

資料1 単元終了後に実施したアンケート調査

【1】 「和歌祭」や「和歌の浦」についての学習は楽しかったですか？
①楽しかった ②どちらかといえば楽しかった ③どちらかといえば楽しくなかった ④楽しくなかった

【2】 【1】の質問で「①楽しかった」「②どちらかといえば楽しかった」と答えた人は「楽しかった」と感じる理由を、「③どちらかといえば楽しくなかった」「④楽しくなかった」と答えた人は「楽しくなかった」と感じる理由を教えてください。（記述）

【3】 今回の社会科の学習では、「自分の力で学習することができた」という実感がありますか？
※「自分の力で学習する」とは、自分でハテナをもって、それについて調べたり、考えたりしながら自分で学習を進めていくことです。ただ自分一人で考えるのがおぼろしくなったり、うまくいかなかったときに、自分から仲間や先生など、身のまわりの人に相談しながら学習を進められることも「自分の力で学習する」ことにふくまれます。
①ある ②どちらかといえばある
③どちらかといえばない ④ない

【4】 今回「和歌祭」や「和歌の浦」の学習で取り組んだ「探究学習」について、「良かった」と感じたことを教えてください。（いくつ答えても良い）
当てはまる番号がない場合は「その他」をえらんで、あなたが「良かった」と感じたことを教えてください。
①学習することが楽しかった
②「何を学習しているのか（学習の中身）」がよくわかった
③「どうやって学習すればよいのか（学習のやり方）」がよくわかった
④自分が決めたハテナを、自分が決めたやり方で学習できた
⑤だれと学習するか（「一人で」「グループで」「ペアで」など）を自分で決めて学習できた
⑥特にない
その他（記述）

【5】 今回「和歌祭」や「和歌の浦」の学習で取り組んだ「探究学習」について、「むずかしかった」と感じたことを教えてください。（いくつ答えても良い）
当てはまる番号がない場合は「その他」をえらんで、あなたが「むずかしかった」と感じたことを教えてください。
①「何を学習しているのか（学習の中身）」がわからなかった
②どうやってハテナを見つければよいか、ハテナを連続させていけばよいかわからなかった
③自分のハテナを解決するために、どのようなことを調べればよいかわからなかった
④自分が知りたいことをどのような方法で調べればよいかわからなかった
⑤自分の学習の筋道（自分がどんなハテナをもち、どのように考えてきたか）がわからなかった
⑥だれかといっしょに学習したいと思ったとき、だれと学習するべきか（だれがどんなハテナをもち、どんなことを考えているか）がわからなかった
⑦特にない
その他（記述）

【6】 今回のように、自分の力で学習していくような社会科の学習についてどう思いますか？
①楽しいし、自分にとって大事である ②楽しいが、自分にとって大事ではない
③楽しくないが、自分にとって大事である ④楽しくないし、自分にとって大事でもない

【7】 これからも自分の力で学習したいと思いますか？
①思う ②どちらかといえば思う ③どちらかといえば思わない ④思わない

【8】 これからも自分の力で学習できると思いますか？
①思う ②どちらかといえば思う ③どちらかといえば思わない ④思わない

【9】 今回取り組んだ「自分の学習をコントロールする振り返り」を通して、「その日の学習を見つめ直し、次にどのような学習をするか考えることができた」という実感がありますか？
①ある ②どちらかといえばある
③どちらかといえばない ④ない

【10】 今回取り組んだ「自分の学習をコントロールする振り返り」について、「良かった」と感じたことを教えてください。（記述）

【11】 今回取り組んだ「自分の学習をコントロールする振り返り」について、「むずかしかった」と感じたことを教えてください。（いくつ答えても良い）
当てはまる番号がない場合は「その他」をえらんで、あなたが「むずかしかった」と感じたことを教えてください。
①「時間の学習がどうだったか（学習のやり方）」について振り返ること
②「時間の学習で考え始めたこと（学習の中身）」について振り返ること
③学習のやり方と考え始めたことから「次の学習に見通し（何をどのように考えるか）をもつ」こと
④特にない
その他（記述）

【12】 今回取り組んだ「自分を物語る振り返り」を通して、「自分の変化や成長がわかった」という実感がありますか？
①ある ②どちらかといえばある
③どちらかといえばない ④ない

【13】 今回取り組んだ「自分を物語る振り返り」について、「良かった」と感じたことを教えてください。（記述）

【14】 今回取り組んだ「自分を物語る振り返り」について、「むずかしかった」と感じたことを教えてください。（いくつ答えても良い）
当てはまる番号がない場合は「その他」をえらんで、あなたが「むずかしかった」と感じたことを教えてください。
①「自分ができるようになったこと」について振り返ること
②「自分の気持ちや考えの変化」について振り返ること
③自分を主人公とした物語を書くように振り返りを書くこと
④特にない
その他（記述）